

春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



明けましておめでとうございます。今年も平成という元号をフルに使える最後の年です。

私は総理官邸勤務を二度経験し、一度目の時に昭和天皇御在位六十一年の記念式典に関わり、二度目の時に平成天皇御在位十年の記念式典の事務方の責任者として関わった。それだけに平成の時代が節目を迎えることに特別な感慨を覚える。

■日々新たに

今年も明治150年に当たる。江戸末期から明治10年「ろまで」に至る変革の時期を明治維新といっているが、維新と革命について故安岡正篤先生は次のような解説をしている。

明治150年

先人の心構えに学ぶ

ら生ずる思い切った政策の断行、これがあつて初めて明治維新が成功した（「運命を創る」より）。維新というのは絶えざる創造である（「人物を創る」より）。

■敬天愛人

明治150年が影響しているのかどうかは知らないが、今年のNHKの大河ドラマの主人公は西郷隆盛である。埼玉出身の偉人澁澤榮一翁の生涯を見ると、天がこの人に特

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

とになる。引用の「日に新たに

翁遺訓」（旧庄内藩の旧臣によること、いくつかの目標を立ててみたくなる。新年の持つ不忠義な力である。一方で、正月の新聞を読んでいると、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット化）、ICT（情報通信技術）、仮想通貨など、科学の進歩が人知を超えていきついで、希望と不安が入り混じつたような気持ちになる。こんな時こそ、人間がしっかりとする必要がある。

150年前にさかのぼり、困難に対処してきた先人の努力や心構えを学び、自らの生き方の鑑とするのもよいのではないだろうか。全ての人に天命がある。何が天命であるかは、一生懸命努力して生きていく中で、ふと気がつくものではないかと思う。特に若い人たちには、尊敬する先輩諸兄の生き方を学びながら、精いっぱい頑張ることの意義と、その結果としての充実感を体得してもらいたいと思う。

「論語」に、弟子の仁について

「論語」に、弟子の仁について

（今回は2月19日付）